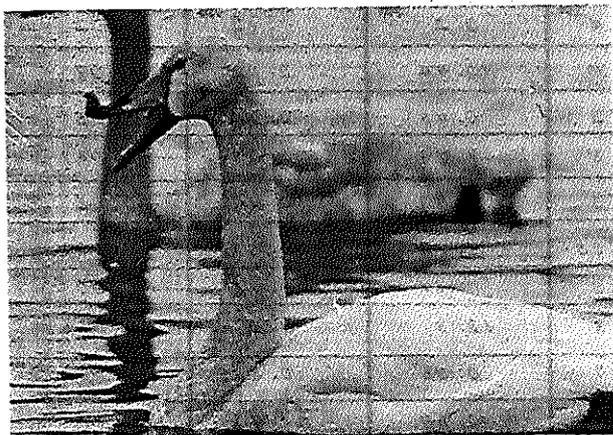


## 阿武隈川のハクチョウ

### その現況と課題



〔クチバシが奇形のオオハクチョウ  
阿武隈川・八木 博氏撮影〕

最近野生動物のエづけ等に関連して過保護という言葉が耳にします。これは重大な問題だと思います。また野生動物の生態を観光への売り物にすることを目的として保護し、その自然性を失なわしめるような行為を見聞いたします。これは歓迎すべきことではないと私も素人でも考えさせられます。私は普通の農業を営む者で浅学非才な者で、むずかしいことは申し上げられませんが、わが阿武隈川へ渡来の白鳥保護については過保護などと申されるようなことは考えられないのです。

別表初渡来以来のデータを見てください。阿武隈川と言えば東北では大河川になっていますが、普通は水量も少なく白鳥の越冬に好適の場所とは申し上げられない所と存じます。にもかかわらず渡来以来越冬中に保護の手を差しのべたら、年々数も多くなり滞在日数も長くなるというデータが出たのです。

各地の有名な白鳥渡来地のように白鳥の越冬に好適な地理的条件がととのっているところならいざしらず、福島市内の阿武隈川のような都会にして、しかも流れも強く羽を休める場所として少ないこの場所へ（一度越冬すればまた翌年も渡来す

上竹二郎

るという習性があるというが）年々渡来を見るようになったことは、保護に力を入れた結果、越冬生活に好適と白鳥たちが判断したからではないでしょうか。

只今、問題なのは白鳥の餌場になっている上流 200メートル位の箇所へ国道 115 号線の鉄橋が架橋されることになり、その工事の騒音が白鳥たちにどんなふうな影響を与えるかということです。関係者および当局の方々も一番心配している点です。

次に給餌活動の問題ですが、日本白鳥の会総会の席上でも問題になった茶ガラの問題ですが、白鳥も空腹な時やお米のような物ばかり多く食べた時などは食べますが、とくに嗜好するものではない。屑米やシイナ、ゴハンの干した物等は好物のように、これらを与えた場合は一物も残さず食べます。

当愛護会では、その他パン屑、めん類、大豆、大麦、小麦も与えますがあまり好むとはいえません。ミカンの皮等も与えますが、これは生のものを 1 センチ 4 方くらいに切って与えれば食べます。

要するに、わが阿武隈川は、流れのため水に浮くものは流されるという欠点があり、パン屑、茶ガラ、ミカンの皮等は流れやすくて困っています。それにパン屑は白鳥より先にカラス、トビ等がきて失敬してしまいます。カラス等は 100～200 も給餌時刻には集まります。米類は水の中に沈んでも食べますし、シイナは流れても追いかけて食べます。パンの場合は流れるにまかせ追いかけては食べません。

これらの餌は市の関係当局の指導で、地元の報道機関の方々や小中学校、一般の愛鳥家の皆様のご協力をえまして集め、福島県野鳥の会福島支部

のご協力もいただき実務的なことは地元岡部白鳥愛護会が主体となり実行しているわけです。

悩みの種が一つ。それは川という自然の中で白鳥を保護するには、流れを一部せき止めなければならぬこと。春の雪解け水で大増水して川幅一面急流と変り白鳥が体を休める所がなくなる時です。その他いろいろな事情も多く保護活動にはこれからも多難なことが多いと察せられます。

今秋で7年目を迎えんとする阿武隈川の白鳥です。力を合わせ努力することをご報告申し上げます。

なお白鳥の識別のことですが、なかなかむずかしい問題で、「昨年渡来した白鳥が今年もきたの

か」との質問が再々聞かれますが、それには確答ができず困っています。ただ初渡来の白鳥が給餌場へ入ってくる時、前年と同じような行動で給餌場へ入るものは昨年もきた白鳥であろうと返答している次第です。

今季の調査中（S49～50年春）に目印になる白鳥が1羽いたことをご報告申し上げます。その白鳥はオオハクチョウの成鳥で上クチバシが上の方へ2センチくらい折れ曲り帆を上げたように見えるのがいました。これを目印に今秋を期待しています。

（昭和50年8月7日 福島市岡部字岡部54）

阿武隈川(福島市岡部)ハクチョウ渡来状況図表  
(岡部白鳥愛護会編)

